

令和2年度「学術変革領域研究（B）」新規採択研究領域
に係る研究概要・審査結果の所見

領域番号	20B103	領域略称名	中近世の宗教運動
研究領域名	中近世における宗教運動とメディア・世界認識・社会統合：歴史研究の総合的アプローチ		
領域代表者名 (所属等)	大貫 俊夫 (首都大学東京・人文科学研究科・准教授)		

(応募領域の研究概要)

本研究は、中近世において宗教者が司牧／教化のためにどのような新しいメディア（テキスト、図像、巡礼など）を創出し普及させたか、またそれらのメディアがどのような価値観と世界認識の仕方を当該社会にもたらし、その社会をどう統合に導いたのかを解明することで、文明史叙述の刷新を試みる総合的歴史研究である。キリスト教修道制からは観想修道会、托鉢修道会、イエズス会、そしてそれに中世日本寺社を加えて4研究班でこの課題に取り組む。歴史学、美術史学、文学の協同によってテキストと図像の総合的解釈を実現させ、宗教者が生み出したメディアの特質を通時的・共時的に比較し、宗教運動と当該社会との間のダイナミックな影響関係を描く歴史像を新たに提示する。

(審査結果の所見)

個別研究の進展が著しい中近世におけるヨーロッパと日本の宗教運動の研究に横串を刺し、また、歴史学、美術史、文学の各分野の協業によって、テキスト、図像、巡礼などを「メディア」という観点から分析し、世界認識や社会統合にどのような役割を果たしたか、という観点から文明史の叙述を刷新しようとする総合的な歴史研究であり、前例がなく、学術的な波及効果も高いと考えられる。今回の研究計画では、対象地域がヨーロッパと日本に留まっているが、将来的には、中国文化圏、イスラーム文化圏、アフリカ大陸等も視野に入れた世界史的な展開を構想しており、今後の大きな研究の一つの核となる可能性がある。

一方で、ヨーロッパを対象とした研究の部分は個別修道院を単位とした研究組織になっており、日本史側の調査研究との連携が十分ではなく、学問分野としてもやや限定的であるように見受けられ、実際の研究活動の中で、各計画研究等の連携を強化して学術変革領域研究に相応しい研究成果を上げるとともに、研究の幅を更に広げていくことが期待される。